

09年2月 第4回総会での横山寿一代表世話人の挨拶

自治研設立から三年数ヶ月を経て、地道にいろいろな取組みをしてきました。研究例会やシンポジウム、セミナー、研究会などの活動、能登や加賀での対話と調査などを行ってきました。

能登ではサポーター会員も確保し、能登での研究例会も展望できそうな感じになってきました。研究所の活動スタイルや足場が確実にできてきたと思います。

他方で、自治体そのものに関する調査活動の必要性が高まっていると感じています。行政へのかかわりはこれまで弱かった面があり、地域の抱える困難を自治体の行政にどのように反映させていくかという視点をもちつつ活動していく必要があると思います。

自治体は三位一体改革によって財政的困難を抱えていますが、財政健全化法の導入のなかで財政の効率化圧力にさらされています。住民が贅沢をしたくて作った借金ではなく、景気対策の下でつくられた箱ものに投じられた借金のせいで、住民の生活に関わるサービスが削減されている状況にあります。

こうした状況下で自治体にはどのような役割が求められるのか、ということに踏み込んだ調査活動や政策提言が必要だと思います。こうしたことに向けて、自治研も一歩を踏み出していきたいと思います。